

第6章

キンシャサ市向け食糧の生産・流通構造

—E・トレンスらによる調査の概要—

はじめに

アフリカ大陸は1970年代以降1人当たり農業生産が低下している唯一の地域である。この冷厳な現実⁽¹⁾に直面して、昨今アフリカ諸国の食糧安全保障に関する議論が高まりをみせている。この議論における焦点のひとつは膨張する都市への食糧供給をいかに確保するかという問題にある。しかし残念なことに、食糧安全保障論の高まりとは裏腹に、アフリカ諸国における食糧供給構造の実証的な研究はまだ十分に深化していない。都市に対して、どのような食糧が、どこで、どのように生産され、どのような流通経路を通して供給されるのか。こうした食糧供給の実態は、多くの国でいまだ解明されないままである。

アフリカの大都市への食糧供給をめぐる「謎」を意味する「キンシャサ・プロブレム」⁽¹⁾という言葉がある。1920年代にわずか2～3万人であったザイールの首都キンシャサ（当時はレオポルドヴィル）の人口は第2次大戦後急速に増大し、50年に約20万人、1960年の独立時に約40万人に達した。独立以降、人口増加はさらに加速化し、1980年頃には人口は200万人を超えた。現在の人口は300万人程度と推測されており、ブラックアフリカではナイジェリアのラゴスに次ぐ大都市である。このような人口の急激な増加の一方、ザイールの経済状態の悪化は著しい。1980年代におけるザイール人の実質購買

力は、独立時の1割以下に落ち込んでいるとの推計も存在するほどである。⁽²⁾ ザイールに限らずアフリカの多くの都市で、経済情勢が悪化する中でも都市人口が増え続けている。人口が増加するのは、それを扶養し得る食糧供給が曲がりなりにも確保されているからであろう。しかし、その食糧がどこで生産され、どのように都市まで運ばれるのか、こうした急激な人口増に対応してどのような生産・流通面の組織が形成されたのか、逆に言えばこれほど急激な人口増はいかなる食糧生産・流通構造の上に可能となったのか、等々といった点については依然謎に包まれたままである。これが「キンシャサ・プロブレム」なのである。

この言葉に象徴されるように、キンシャサに対する食糧供給の実態はほとんど解明されていない。第2章で論じたように、キンシャサ住民の食糧が著しくキャッサバに依存していること、そしてそれがバ・ザイール州とバンドゥンドン州という周辺地域から供給されることは明らかになっているものの、食糧の流通経路に関してはこれまでほとんど研究が行われてこなかった。⁽³⁾ しかし最近の食糧安全保障への関心の高まりを背景として、1987年からベルギーおよびアメリカの資金協力の下に、キンシャサへの食糧供給構造に関する大規模な調査が進められ、1991年までにその報告書が刊行された。本章では、食糧供給構造の実証研究を補完するために、キンシャサへの食糧供給に関するこの調査の概要を紹介したい。

この調査は、ベルギーのルーヴァン・カトリック大学（フラマン語地域）農学部農業経済学科のトレンス（Eric F. Tollens）教授を中心に組織され、「農産物流通」（Commercialisation des Produits Agricoles）プロジェクトと名付けられた。このプロジェクトは、ベルギーの開発援助庁（Administration Générale de la Coopération au Développement: AGCD-ABOS）およびアメリカの開発援助庁（United States Agency for International Development: USAID）が資金を拠出し、ザイール側は農業省が受け手となって進められた。⁽⁴⁾

本調査の視角について簡単に説明しておこう。プロジェクトのタイトルが示すように調査の主眼は食糧の流通にあるが、生産局面についても詳細な調

査が行われている。生産局面に関しては、農民がいかなる農作物を生産し、その販売によってどの程度の現金収入を得ているのか、という点の解明に重点が置かれる。一方、流通局面の分析手法としては競争構造分析が用いられる。競争構造分析とは、市場構造とそこで個々の企業がとる市場行動とのあり方が、市場成果とどのように関係するかを考察する手法である。⁽⁵⁾ この手法は元来、独占あるいは寡占市場下の企業行動が市場の効率にいかに関与するか、との問題意識に基づくものであるが、後述するように、キンシャサの農作物市場は卸売市場も小売市場も非常に競争的である。したがって、本調査では市場構造と市場成果に関する分析が中心となっており、市場構造に関しては市場の集中度、流通の担い手、その社会経済的性格、といった点が分析の対象となる。

報告書は、統計資料集(全19冊)とその統計を整理した問題群別報告書(全29冊)からなり、その資料的価値はきわめて大きい。⁽⁶⁾ これまでこの種の調査が欠落していたことに加え、トレンスらの調査では後述するように精度を高めるための調査手法上の努力が随所になされておられ、今後の調査者が参考とすべき点も多いからである。調査は膨大であり、そのすべてを紹介することはできないが(本章末に報告書のタイトルを訳出しておく)、本章ではこの調査に関した、生産および販売・購入局面、集荷・輸送局面、キンシャサ小売市場に関するものの順に、いかなる調査手法がとられたかについて説明しながら筆者の関心に従ってその内容を整理してゆきたい。

第1節 生産および販売・購入

1. 生産

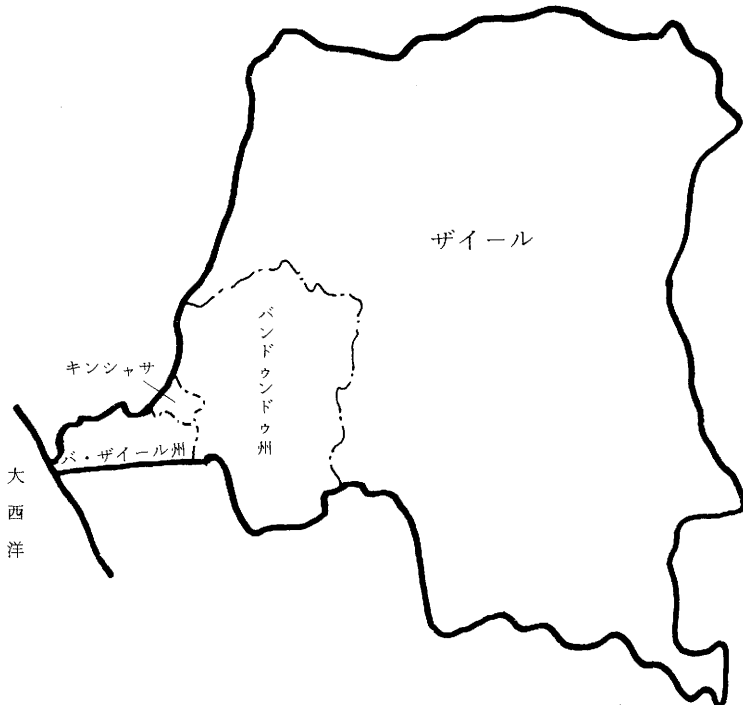
生産局面および販売・購入局面に関しては、トレンスらの調査ではキンシャサ市に隣接する2つの州、すなわちバ・ザイル(Bas-Zaïre)州とバン⁽⁷⁾

ドゥンドゥ (Bandundu) 州に調査対象が限定されている。この2つの州は、キンシャサ市への食糧供給の中心地であり、とりわけ最も基礎的な食糧であるキャッサバ、トウモロコシ、落花生の大半がこの地域から供給されていることを考えれば、この限定は妥当であろう。

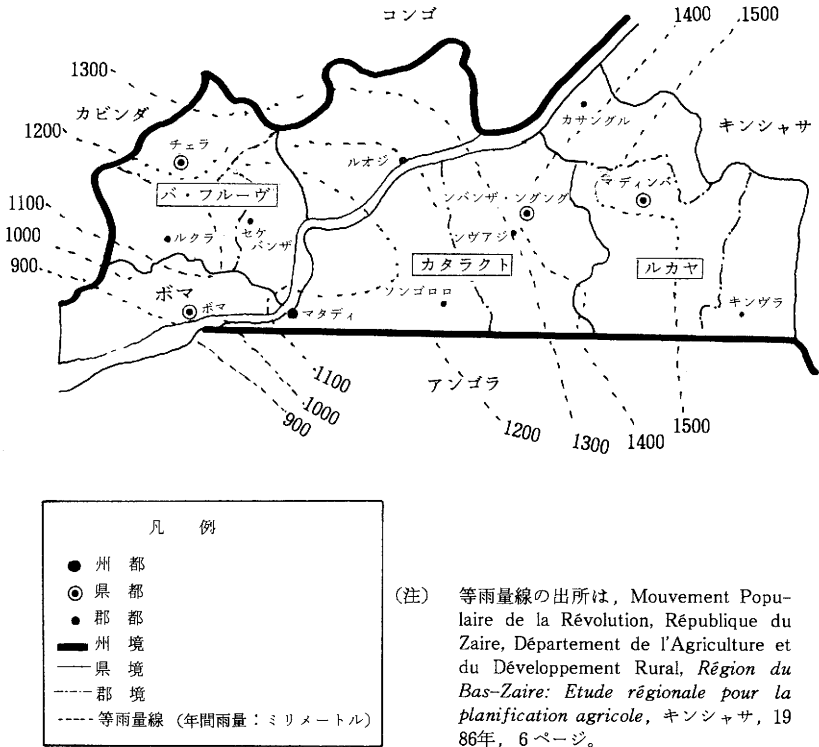
(1) 基礎指標

まず、バ・ザイル州およびバンドゥンドゥ州についての基礎指標をあげておこう。第1～3図に両州の行政区分と主要都市、そして等雨量線を示す。県レベルまでの人口および人口密度は第1表に示すとおりである。バ・ザイル州とクウィル準州が相対的に人口稠密になっている。気候・植生につ

第1図 バ・ザイル州およびバンドゥンドゥ州の位置

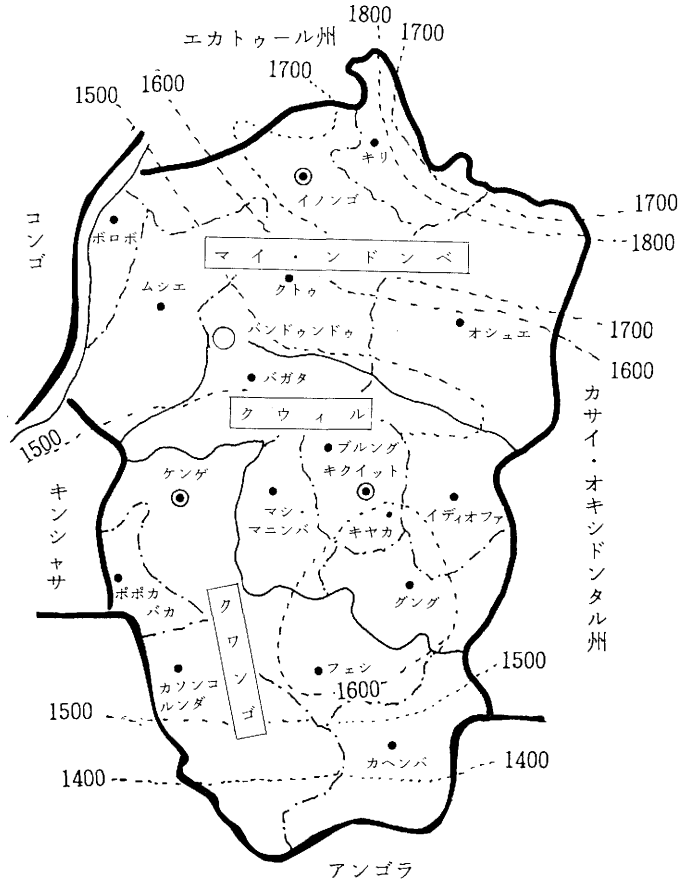


第2図 バ・ザイル州行政区分図と等雨量線



いて言えば、等雨量線からも明らかなように、北部ほど雨量が多く、バ・フルーヴ準州北部とマイ・ンドンベ準州北部が森林地域となっている。特にマイ・ンドンベ準州北部になるとコンゴ盆地の中心部に近く、明瞭な乾期が短くなる。一方、その他の地域はいわゆるサバンナであり、年2回の雨期がある。キンシャサ近郊であれば、10月から1月頃までの大雨期と、3月から5月頃の小雨期とが存在する。

第3図 バンドゥンドゥ州行政区分図と等雨量線



凡 例	
○	州 都
⊙	準州都
●	県 都
—	州 境
—	準州境
- - -	県 境
- - -	等雨量線 (年間雨量：ミリメートル)

(注) 等雨量線の出所は、第2図に同じ、9ページ。

第1表 バ・ザイール州およびバンドゥワン州の人口と人口密度 (単位:人,人/km²)

バ・ザイール州		バンドゥワン州	
人口	人口密度	人口	人口密度
マタディ市	144,742	バンドゥワン市	63,189
ボマ州	179,455	キタイト市	146,784
バ・フルーヴ州	530,541	マインドンバ州	688,912
チェラ県	235,582	イノゴ県	138,826
セケ・バンザ県	121,828	キリ県	79,150
ルクラ県	173,131	オンユエ県	78,687
カタラクト州	747,781	クトゥ県	214,399
ンバンザ・ングング県	406,158	ムジエ県	93,199
ソングロ県	205,461	ボロ県	84,651
ルオジ県	136,162	クウィル州	1,936,084
ルカヤ州	369,001	ブルング県	555,610
マディンバ県	228,999	マシ・マニンバ県	417,631
カサングル県	94,004	バガタ県	206,101
キンヴラ県	45,998	イティオファ県	470,229
		グング県	286,513
		クワンゴ州	847,876
バ・ザイール州計	1,971,520	ケング県	265,123
		フェン県	115,870
		カヘンバ県	94,828
		カソング・ルンダ県	272,658
		ボボカバカ県	99,397
		バンドゥワン州計	3,682,845

(出所) République du Zaïre, Institut National de la Statistique, *Combien sommes-nous? Résultat provisoire*, キンシャサ, 1984年, 29~31ページ / Département de l'Agriculture et du Développement Rural, *Région du Bas-Zaïre: Etude régionale pour la planification agricole*, キンシャサ, 1986年, 3ページ / 同 *Région de Bandundu: Etude régionale pour la planification agricole*, キンシャサ, 1983年, 3ページ, かわら作威。

(2) 調査方法

生産および販売に関するトレンスらの調査は、バンドゥンドン州については1987年10月～88年9月、バ・ザイル州については88年10月～89年9月のそれぞれ一農業年度にわたって実施された。したがって、本節で示すデータは特に説明のない限りこの年次に取りられたものである。調査が実施された年の気象条件が平年に比べてどうであったかについては報告書の中で特に触れられていない。ただし、両州の気象データをここ15年にわたって記載した資料によれば、⁽⁸⁾1987年から89年にかけて平年と極端に異なる気象条件であったとは考えにくい。またこの間、両州における農業生産が著しい豊作あるいは不作であったとの情報もないことから、調査が実施された年の気象条件は平年と大幅に異なっていたとは考えにくい。

この調査では世帯が調査単位とされ、バ・ザイル州から1040世帯、バンドゥンドン州から1305世帯が調査対象に選ばれた。これらの世帯は次のような方法で抽出された。⁽⁹⁾①郡および都市市街区 (quartier des villes) を機械的に2分割し、最初の部分を選択する。⁽¹⁰⁾②ここから郡、市街区ごとに50カ村(町)を無作為に抽出する。③この50カ村(町)を世帯数の多い順に並べ、郡(市街区)の大きさに従って5カ村(町)または10カ村(町)を抽出する。⁽¹¹⁾④こうして選ばれた各町村ごとに5世帯が無作為抽出法で選ばれ、⁽¹²⁾これらが調査対象となる。⁽¹³⁾

本調査では、食糧作物の生産、販売、購入、消費などに関する量的な把握を目指しているため、計測に際しての定義がきわめて重要となる。この地域の最も重要な食糧作物であり、中心的な調査対象となったキャッサバ、トウモロコシ、落花生の計測にあたっての取決め事項は次のとおりである。

キャッサバの重量はすべて原則としてイモ重量換算で行う。キャッサバの取引形態には、掘りだしたままのイモ形態の他に、毒抜き後の皮を剥いた形態やコセット(キャッサバを乾燥させたもの)、シクワング(キャッサバをペースト状に加工したもの)、キャッサバ粉などがあるが、いずれも掘りだしたままのイモ重量に換算して計上する。換算率は第2表に示すとおりである。一

第2表 キャッサバの「イモ」形態と加工形態との重量換算率¹⁾

	換 算 率	換 算 率 の 根 拠
皮を剥いたキャッサバ	0.759	本調査における計測結果
ペースト	0.494	同 上
シクワング	0.559	同 上
コセット	0.390	L. Fresco 188ページ ²⁾
キャッサバ粉	0.270	同 上

(注) 1) 「イモ」形態とは、皮を剥かず、何の加工も加えないキャッサバを指す。ここでの換算率とは、「イモ」形態のキャッサバ重量に対する比率である。

2) Louise O. Fresco, *Cassava in Shifting Cultivation: A Systems Approach to Agricultural Technology Development in Africa*, アムステルダム, Royal Tropical Institute, 1986年。

(出所) *Publication 10*, 3ページ, 第1表。

方、トウモロコシの重量はすべて穀粒に換算される。トウモロコシの取引形態には、穀粒の他に「乾燥させていない穂」および「乾燥させた穂」があるが、「乾燥させていない穂」から「乾燥させた穂」への重量換算率は0.70、「乾燥させた穂」から「トウモロコシ粒」へのそれは0.75と定められている。また、落花生の重量は殻付きのままで測定される。

重量計測を正確にするために、調査方法に工夫が凝らされている。計測単位としては、農民が物を入れて運ぶ道具として最も一般的な「洗面器」が利用された。調査対象農家には、このプロジェクトから洗面器が与えられ、農民は毎週訪問してくる調査者に、先週は洗面器何杯分のキャッサバのイモ（あるいはコセット、キャッサバ粉、トウモロコシ粒等々）を取穫（販売、購入等々）した、という形で答える。調査表には洗面器の絵が描かれ、調査者は農民の答えた杯数分をバツ印で消してゆく。一方、作物で満たされた1杯の洗面器がどのくらいの重量を持つのかについても繰り返し計測されている。例として、トウモロコシおよび落花生の洗面器1杯分の平均重量その他について、第3表に示す。ここで得られた平均重量に、調査された洗面器の杯数と換算率を掛け合わせることにより、生産や販売・購入についての量的把握を行う。

また、調査者と農民との意志疎通をはかるため、農民に面接して調査表に

第3表 トウモロコシおよび落花生の洗面器1杯分重量計測結果

	計測回数	平均重量 (kg)	標準偏差
トウモロコシ			
乾燥させた種	351	13.50	4.08
乾燥させていない種	168	19.74	6.46
落花生	428	12.36	3.06

(注) バンドゥンドン州において1987年10月～88年9月に実施。

(出所) *Publication 4*, 7ページ, 第2表。

記入する村レベルの調査者は原則として当該村の住民から選ばれた。調査表もこの地域の共通言語であるコンゴ語 (Kikongo ya Leta) とフランス語で書かれている。

本調査の特徴は、量的な把握を試みる際に、坪刈りなどの「客観的」な測定方法を用いずにすべて農民からの聞き取りによっていることである。この点について報告書では、この地域はアフリカの多くの地域と同様、混作が一般的であり、坪刈りを行えばかえって不正確になることを理由としてあげている。実際、政府統計の数値などがきわめて信頼性に乏しいことは周知の事実であり (これは必ずしも調査手法だけの問題ではないが)、聞き取りを利用した彼らの手法は坪刈りによる測定が困難な場合にデータの信頼度を高めるための試みとして評価できる。

(3) 栽培作物

生産局面に関わる調査の中から、栽培作物に関するものを説明しておこう。第4表はバ・ザイル州およびバンドゥンドン州の主要作物について栽培農家の割合を示したものである。この表からは、例えばバ・フルーヴ県では97%の農家がキャッサバを栽培していることが読み取れる。ほとんどの農家でキャッサバ、トウモロコシ、落花生が栽培されており、その他には葉を取るためのキャッサバ栽培が目立っている。個々の農家レベルではいくつかの作物を栽培しているのであろうが、いずれの農家にも共通する作物ということになると上記の3つの食糧作物に収斂するのである。したがって、以下の販

第4表 バ・ザイル州、バンドゥンドン州農村部における主要作物栽培農家の割合 (%)

作物	バ・ザイル州準州			バ・ザイル州平均	バンドゥンドン州準州			バンドゥンドン州平均
	バ・フルーヴ	カタラクト	ルカヤ		クワンゴ	クワイル	マイ・ンドンベ	
キャッサバ	97	100	100	99	99.5	100.0	98.5	99.5
トウモロコシ	99	88	77	90	93.3	93.5	93.3	93.3
落花生	65	99	93	86	95.3	98.4	70.9	91.8
米	29	17	15	20	9.9	13.1	16.5	12.6
オイル・パーム	41	9	5	18	38.3	38.0	47.0	40.1
コーヒー	54	10	5	23	7.3	20.1	40.0	21.1
キャッサバの葉	94	99	98	97	96.7	84.2	89.6	88.6
バナナ	81	61	20	59	—	—	—	—
インゲン	87	74	78	80	—	—	—	—
ヤムイモ	—	—	—	—	80.5	57.1	32.1	57.1
ミレット	—	—	—	—	9.3	22.6	0.0	14.2

(出所) バ・ザイル州については、*Publication 15*, 6ページ, 第1表, バンドゥンドン州については、*Publication 6*, 5ページ, 第1表から作成。

売や流通に関する調査ではこの3つの作物が中心となる。

2. 販売・購入局面

ここでは、生産された食糧作物をどのように販売あるいは購入しているか、という側面の調査結果を説明する。アフリカの農村では現金を利用した取引よりも物々交換や贈与の方が重要だと認識がままあるが、この両州に関しては第5表が示すように現金取引が圧倒的に重要である。

まず、どのような作物を販売しているかについての傾向を知るために、第6表にバンドゥンドン州における主要作物の販売農家割合を示す。キャッサバを始めとする先の3つの作物はここでも重要であり、その他に米、コーヒー、シコクビエ等も販売農家の割合が高いことがわかる。ただし、生産量との関連で考えれば、農家にとっては販売面でもキャッサバ、トウモロコシ、落花生が決定的に重要であり、その中でもキャッサバが突出した販売額を有していることは第7表が示すとおりである。一方、バ・ザイル州においても、第8表に示す主要農産物の販売額から明らかなように、キャッサバ

第5表 バ・ザイール州，バンドゥンドンゥ州における取引の形態

	現金	物々 交換	現金 + 物々交換	贈与	信用	その他	合 計
バ・フルーヴ	91.4	0.8	—	5.7	2.2	0.0	100.0
カタラクト	77.9	2.5	—	16.6	2.5	0.1	100.0
ルカヤ	88.7	0.6	—	3.9	6.7	0.0	100.0
都市部	92.3	0.2	—	6.1	1.3	0.1	100.0
バ・ザイール州平均	87.7	1.2	—	8.3	2.7	0.1	100.0
クワンゴ	85.2	3.9	4.0	6.9	—	—	100.0
クウィル	92.9	3.8	0.4	2.8	—	—	100.0
マイ・ンドンベ	93.8	4.9	0.2	1.4	—	—	100.0
キグイット	99.9	0.0	0.0	0.1	—	—	100.0
バンドゥンドンゥ	99.4	0.4	0.1	0.0	—	—	100.0
バンドゥンドンゥ州平均	92.2	3.8	1.0	3.0	—	—	100.0

(注) バ・ザイール州は購入時，バンドゥンドンゥ州は販売時の取引形態である。

(出所) バ・ザイール州については，*Publication 21*，5ページ，第2表。

バンドゥンドンゥ州については，*Publication 7*，4ページ，第1表。

第6表 バンドゥンドンゥ州主要作物について生産物の一部を販売している農家の割合 (%)

	準 州 名			バンドゥンドンゥ 州平均
	クワンゴ	クウィル	マイ・ンドンベ	
キャッサバ	89.1	92.1	94.7	91.6
トウモロコシ	65.1	81.8	84.8	79.6
米	57.1	80.6	69.8	73.6
落花生	65.2	80.3	52.8	70.4
オイル・パーム	20.6	60.3	53.7	49.2
コーヒー	46.0	65.6	85.6	72.3
シコクビエ	35.1	81.9	0.0	74.0
ヤム	14.4	60.0	31.8	33.0
キャッサバの葉	7.4	14.1	18.3	13.7

(注) 本調査の対象は1987年10月から88年9月である。

(出所) *Publication 6*，15ページ，第3表。

第7表 バンドゥンドゥ州におけるキャッサバ、トウモロコシ、
落花生販売額の準州別比較 (%)

	キャッサバ	トウモロコシ	落花生	計
クワンゴ	80.6	6.6	12.8	100.0
クウォル	64.0	15.8	20.1	100.0
マイ・ンドンベ	81.9	15.2	2.8	100.0
キクイット	91.7	7.6	0.6	100.0
バンドゥンドゥ	76.1	5.2	18.7	100.0
準州平均	70.7	14.2	15.1	100.0

(出所) *Publication 7*, 11ページ, 第5表。

第8表 バ・ザイール州における主要作物の純販売額 (販売額—購入額)
(1988年10月～89年9月) (単位: ザイール)

作物	準州名			バ・ザイール州 平均
	バ・フルーヴ	カタラクト	ルカヤ	
キャッサバ	44,322	108,493	48,163	69,738
トウモロコシ	2,547	1,707	5,518	3,269
落花生	2,502	13,778	13,567	9,618
米	-14,328	-4,696	-1,458	-9,592
インゲン	-7,019	2,059	2,915	-2,644
バナナ	9,545	12,892	1,142	9,472
キャッサバの葉	1,358	555	1,114	1,594
計	38,927	134,788	70,961	81,455

(注) (1) 上記販売額はインフレ率でデフレートしたものである。

(2) 原表にある計算上の誤りは修正した。

(出所) *Publication 21*, 12ページ, 第8表から作成。

の販売額が群を抜いて多い。

次に、食糧作物の販売者の性格と取引形態を知るために第9表～第12表を示す。これらの表から、販売者は主として女性であること、販売形態としてはキャッサバであればコセット (キャッサバを乾燥させたもの)、トウモロコシであれば粒、落花生であれば殻つきのものが一般的であることがわかる。また、食糧作物の購入者については、第13表に示すように、村人よりも商人で

第9表 バンドゥンドゥ州におけるキャッサバ、トウモロコシ、
落花生販売額の販売者別内訳 (%)

	男 性	女 性	子 供	計
クワンゴ	18.1	62.3	19.6	100.0
クウィル	21.6	60.4	18.0	100.0
マイ・ンドンベ	27.4	59.5	13.1	100.0
バンドゥンドゥ	21.9	63.2	14.9	100.0
キクイット	8.7	63.7	27.6	100.0
州 平 均	22.1	60.5	17.4	100.0

(出所) *Publication 13*, 18ページ, 第10表。

第10表 バンドゥンドゥ州におけるキャッサバの形態別販売額割合 (%)

	イモ形 態	コセッ ト	シクワ ング	キャッ サバ粉	ペース ト	その他	計
クワンゴ	2.4	89.6	4.8	0.6	2.6	0.0	100.0
クウィル	0.8	96.9	1.5	0.6	0.2	0.0	100.0
マイ・ンドンベ	4.8	49.1	22.8	1.4	21.6	0.3	100.0
バンドゥンドゥ	2.2	87.4	7.2	0.2	2.3	0.7	100.0
キクイット	0.8	78.2	14.3	0.1	6.6	0.0	100.0
州 平 均	2.0	83.7	7.5	0.8	5.9	0.1	100.0

(注) (1) 100%で販売額を示す。

(2) 「イモ形態」とは未加工のキャッサバを指す。

(出所) *Publication 13*, 4ページ, 第1表。

第11表 バンドゥンドゥ州におけるトウモロコシの形態販売額割合 (%)

	トウモロコ シ粉	乾燥して いない穂	乾燥した穂	粒	計
クワンゴ	0.1	9.1	13.3	77.5	100.0
クウィル	2.1	2.4	12.3	83.2	100.0
マイ・ンドンベ	0.7	7.5	23.9	67.9	100.0
バンドゥンドゥ	0.0	11.8	23.8	58.2	100.0
キクイット	4.1	6.1	36.3	53.4	100.0
州 平 均	1.7	4.1	15.4	78.8	100.0

(注) 100%で販売総額を示す。

(出所) *Publication 13*, 7ページ, 第2表。

第12表 バンドゥンドゥ州における落花生の形態別販売額割合 (%)

	殻 な し	殻 つ き	計
クワンゴ	10.6	89.4	100.0
クウィル	20.8	79.2	100.0
マイ・ンドンベ	10.2	87.8	100.0
バンドゥンドゥ	0.8	99.2	100.0
ククイット	20.3	79.7	100.0
州 平 均	18.8	81.0	100.0

(注) 100%で販売総額を示す。

(出所) *Publication 13*, 10ページ, 第3表。第13表 バンドゥンドゥ州におけるキャッサバ、トウモロコン、
落花生販売額の購入者別割合 (%)

	村 人	商 人	そ の 他	計
クワンゴ	16.6	49.4	34.0	100.0
クウィル	13.2	63.9	22.9	100.0
マイ・ンドンベ	20.0	53.7	26.3	100.0
バンドゥンドゥ	43.5	21.8	34.7	100.0
ククイット	35.3	18.0	46.7	100.0
州 平 均	15.7	58.5	25.8	100.0

(注) 100%で販売総額を示す。

(出所) *Publication 13*, 20ページ, 第11表。

ある場合が多い。ここに示した統計はバンドゥンドゥ州に関するものだが、バ・ザイル州においても食糧作物の販売者や販売形態の特徴は共通している。

農民はこれら3つの作物販売からどの程度の収入を得ているのだろうか。バンドゥンドゥ州についてそれを示すのが第14表である。ここに示す純販売額とは、キャッサバ、トウモロコンおよび落花生の販売額から購入額を差し引いたものである。純販売額が0ザイル（ザイルは通貨単位である。換算率は別表を参照。以下zと略する）から3万zの階層が多い一方、相対的に貧困なクワンゴ準州を除いて収入が6万zを超える階層も少なくないことがわかる。

第14表 バンドゥンドンゥ州におけるキャッサバ、トウモロコシ、落花生の純販売額度数分布

(%)

販売額 (単位：1000ザ イール)	クワンゴ 準州	クウィル 準州	マイ・ン ドンベ 準州	バンドゥ ンドンゥ市	キクイッ ト市	バンドゥ ンドンゥ州 平均
<-10	0.8	1.7	0.7	23.4	14.4	1.6
-10~<-5	1.4	1.9	0.7	1.0	7.6	1.6
-5~<0	5.2	1.4	5.0	8.4	8.7	3.3
0~<5	21.0	6.8	13.4	7.9	9.1	11.8
5~<10	16.0	13.8	15.7	2.0	9.5	14.6
10~<15	13.5	11.6	14.0	7.1	7.9	12.5
15~<20	13.8	12.9	9.2	8.4	12.6	12.3
20~<30	19.4	17.0	17.0	15.1	9.4	17.5
30~<40	5.0	9.6	6.2	8.4	4.2	7.6
40~<50	2.3	6.3	7.1	6.2	5.7	5.5
50~<60	0.5	5.4	1.9	3.7	0.0	3.4
>60~	1.1	11.5	8.9	8.4	10.9	8.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注) 調査は1987年10月から88年9月までの販売を対象としている。

(出所) *Publication 7*, 20ページ, 第8表。

次に地域的な差異を把握するために、主要食糧作物（キャッサバ、トウモロコシ⁽¹⁴⁾、落花生）の県別平均純販売額を比較してみよう。第15表と第16表にそれを示す。バ・ザイール州ではカタラクト準州を中心とするマタディとキンシャサを結ぶ舗装道路の沿線地域において平均販売額が高く、バンドゥンドンゥ州でもバガタ県、イディオファ県、ムシエ県などキンシャサへのアクセスが相対的に良好な地域でそれが高い。平均純販売額の高さは商品化される作物量の多さをあらわしているから、農産物の商品化に際して流通へのアクセスが重要な要因となっていることが推測できる。

さて、結局のところ作物は1世帯当たりどの程度生産され、どの程度販売されるのか。3種類の主要食糧作物についてそれを見たのが第17表と第18表である。これらの表から、両州ともに生産量でも販売量でもキャッサバが圧

倒的に多いこと、一方商品化率（販売量／生産量）に関しては3種類の作物いづれもかなり高いことがわかる。

第15表 バ・ザイル州におけるキャッサバ、トウモロコシ、落花生の純販売額
（単位：ザイール）

	純販売額	州平均との比較
チェラ県	17,677	22
ルクラ県	90,829	112
セケ・バンザ県	32,580	40
バ・フルーヴ準州平均	47,029	58
ルオジ県	50,470	62
ンバンザ・ングング県	187,402	230
ソングロロ県	123,387	151
カラタクト準州平均	120,420	148
マディンバ県	85,300	105
キンヴラ県	28,947	36
ルカヤ準州平均	57,124	70
ボマ準州	-26,311	-32
マタディ市	69,286	85
バ・ザイル州平均	81,455	100

(注) (1) 純販売額とは、販売額から購入額を差し引いたものを意味する。

(2) 調査は1988年10月から89年9月に行われた取引を対象としている。

(出所) *Publication 21*, 11ページ, 第7表。

第16表 バンドゥンドゥ州におけるキャッサバ、トウモロコシ、落花生純販売額
(単位：ザイール)

	純販売額	州平均との比較
オッシュェ県	32,385	141
ムシエ県	37,468	163
クトゥ県	17,681	77
キリ県	22,001	96
イノング県	17,398	76
ボロンボ県	14,226	62
マイ・ンドンベ準州平均	23,527	102
マシ・マニンバ県	13,202	57
イディオファ県	42,668	185
グング県	17,616	77
ブルング県	26,920	117
バガタ県	32,727	142
クウィル準州平均	26,626	116
ボボカバカ県	11,387	49
ケンゲ県	17,668	77
カソング・ルンダ県	12,838	56
カヘンバ県	14,681	64
フェシ県	10,807	47
クワンゴ準州平均	13,476	59
キクイット市	17,819	77
バンドゥンドゥ市	17,195	75
バンドゥンドゥ州平均	23,015	100

(注) (1) 純販売額とは販売額から購入額を差し引いたものを意味する。

(2) 調査は1987年10月から88年9月に行われた取引を対象としている。

(出所) *Publication 8*, 26ページ, 第4表より作成。

第17表 バ・ザイール州におけるキヤッサバ、トウモロコシ、落花生の生産と用途(1988年10月～89年9月までの1年間の1世帯平均量)
(単位: kg)

	準 州 名			
	バ・フルーヴ	カタラクト	ルカヤ	
生産量	キヤッサバ 5,007	キヤッサバ 6,427	キヤッサバ 4,591	落花生 211
米期播種用保存量	トウモロコシ 166	トウモロコシ 114	トウモロコシ 171	落花生 36
自家消費量	10	7	—	10
純販売量	3,367	1,714	3,657	35
販売量	1,640	4,713	934	126
購入量	1,766	4,956	1,360	139
販売量/生産量%	35.3	77.1	29.6	81.3
	38.6	25.4	30.5	55.0
	2	4	18	27
	24.7	4	18	27

	バ・ザイール州平均			
	都市部	バ・ザイール州平均		
生産量	キヤッサバ 2,353	キヤッサバ 5,310	キヤッサバ 260	落花生 260
米期播種用保存量	トウモロコシ 162	トウモロコシ 147	トウモロコシ 146	落花生 146
自家消費量	10	—	9	44
純販売量	1,323	2,675	78	70
販売量	1,031	2,656	60	70
購入量	1,459	2,912	66	90
販売量/生産量%	428	256	6	20
	62.0	54.8	44.9	34.6
	53.1	33.3		

(出所) Publication 23, 6 ページ, 第2表, 同8 ページ, 第4表, 同10 ページ, 第7表より作成。

第18表 バンドゥンドン州におけるキャッサバ、トウモロコシ、落花生の生産と用途（1987年10月～88年9月までの1年間の1世帯平均量）
（単位：kg）

	標準 州 名								
	クワンゴ		クウィル		マイ・ンドンベ				
生産量	キャッサバ 6,101	トウモロコシ 146	落花生 201	キャッサバ 8,124	トウモロコシ 414	落花生 279	キャッサバ 9,234	トウモロコシ 322	落花生 96
損耗量	523	17	35	455	34	31	776	22	11
来期播種用保存量	—	9	34	—	25	48	—	19	16
自家消費量	3,427	60	72	3,857	107	81	5,034	55	48
純販売量	2,131	60	60	3,812	248	119	3,424	226	21
販売量	2,404	62	75	4,165	277	174	3,694	255	40
購入量	273	2	15	353	29	55	270	29	19
販売量/生産量(%)	39.4	42.5	37.3	51.3	66.9	62.4	40.0	79.2	41.7
	バンドゥンドン		キクイット		バンドゥンドン州平均				
生産量	キャッサバ 4,946	トウモロコシ 102	落花生 242	キャッサバ 4,916	トウモロコシ 224	落花生 110	キャッサバ 7,859	トウモロコシ 331	落花生 220
損耗量	108	7	31	99	17	12	540	27	28
来期播種用保存量	—	6	41	—	13	19	—	20	37
自家消費量	3,529	76	106	3,440	191	80	4,004	87	73
純販売量	1,309	13	64	1,377	3	—	3,315	197	82
販売量	2,072	90	100	3,145	88	69	3,649	221	120
購入量	763	77	36	1,768	85	70	334	24	38
販売量/生産量(%)	41.9	88.2	41.3	64.0	39.3	62.7	46.4	66.8	54.5

（出所）Publication 9, 10ページ, 第3表, 同12ページ, 第4表, およびPublication 10, 15ページ, 第9表より作成。

第2節 集荷・輸送

前節までは視座を農民において、農産物の生産、販売、購入活動に関する調査を検討してきた。本節では流通局面に眼を転じ、集荷・輸送に関する調査を整理する。これらの調査では、流通業者の性格の把握を通じて市場構造が検討され、⁽¹⁵⁾ マージンの評価を通じて市場成果が考察される。トレンスらは、キンシャサに対する食糧作物の安定供給を確保するための手段として、流通機構の物的・制度的改善を重要視しており、⁽¹⁶⁾ 先述したようにこの集荷・輸送に関する調査は、彼らの膨大な調査報告の中核をなしている。

1. 調査方法

流通業者のマージンを検討するためには、各流通段階における価格水準を把握する必要がある。まず生産者価格については、第1節で説明したように農民に対する聞き取り調査によって把握する。バ・ザイル州の1040世帯、バンドゥン州の1305世帯に対して、調査対象世帯がいかなる作物を、いかなる形態で、どれだけ販売し、その結果いくら収入を得たかを調査する。そこから販売形態別の生産者価格を算出するのである。他の流通段階としては、卸売市場と小売市場の価格水準が調査される。⁽¹⁷⁾ これに関しては、5つの卸売市場と9つの小売市場について、本調査のザイル側の責任主体である農業省市場・価格・農村金融局が、キャッサバ、トウモロコシ、落花生の販売価格を毎週1回1年間にわたって調べたデータが用いられている。なお、調査時期を通じザイル経済は激しいインフレ状態にあったため、価格水準も時系列的に上昇傾向を示している。価格について解釈を加える際にはこの点に留意する必要がある。⁽¹⁸⁾

各流通段階における価格水準の把握に加えて、集荷・輸送業者の性格に関

する調査とその費用調査が重視され、この点に関連して次の2つの調査結果が分析されている。第1に「パーキング」調査である。これは卸売市場、すなわち農産物を積載したトラックが集まる駐車場で行われた輸送業者に対する調査であり、調査事項は以下のようなものである。①車両ナンバー、車両の種類、積載容量。②積み荷の内容と量、販売価格。③買付け地、買付け価格。④輸送費の内訳、トラックの借り上げ料。この調査は1986年初頭にいくつかの「パーキング」で行われた。その後この調査結果は放置されていたが、トレンスらの調査プロジェクトがこの整理に着手し、1990年に1万5000台分のトラックに関するデータ整理を終えた。

第2に、「道路輸送業者」、「河川輸送業者」、「パルコリ」(par colis)に関する調査である。これは、キンシャサへの食糧供給の担い手の性格に関する総合的な調査であり、「道路輸送業者」とは農産物を運搬するトラックの所有者、借用者、管理者を、「河川輸送業者」とはやはり農産物を運搬する船舶の所有者、借用者、管理者を指す。「パルコリ」とは、自分で輸送手段を持たないが、トラックや船舶の荷台の一部を借用して数袋の農産物をキンシャサに運び、「パーキング」で販売する小規模な商人を意味する。この調査は、道路輸送業者500名、河川輸送業者208名、パルコリ1405名(うち1000名がトラック利用者、405名が船舶利用者)を対象として、1990年の10月から11月にかけて実施された。道路輸送業者およびトラックを利用するパルコリについては、キンシャサ市内でトラックが1日平均0.5台以上到着する55の「パーキング」を、1日平均のトラック到着台数によって、①1日平均5台以上、②1日平均3～5台、③1日平均3台以下、の3段階に区分し、それぞれのレベルから3分の1の「パーキング」を無作為抽出して調査を実施した。河川輸送業者および船舶を利用するパルコリについては、同じく1990年10月から11月にかけてキンシャサ港に到着した船舶を対象に調査が行われた。この調査によって先の「パーキング」調査が補完され、流通業者のコスト分析に精緻さが増すとともに、その性格に関しても豊富な情報が得られた。

2. 各流通段階における価格水準

以下では、上記の3調査に基づいてキンシャサ市場への農産物流通構造を整理する。まず、各流通段階における価格水準を見てみよう。第19表と第20表にキャッサバ、トウモロコシ、落花生に関する生産者価格、卸売価格、小売価格の関係を示す。3つの作物の中ではキャッサバの生産者価格の割合が

第19表 バ・ザイル州からキンシャサ市場へのキャッサバ、トウモロコシ、落花生の流通に伴う価格水準の推移

	キャッサバ (コセット)		トウモロコシ (粒)		落花生 (殻つき)	
	Z/Kg	%	Z/Kg	%	Z/Kg	%
生産者価格	56	38	38	36	154	58
卸売価格	99	66	87	83	206	77
消費者価格	149	100	105	100	267	100
小売業者のマージン	50	34	18	17	61	23
集荷輸送業者のマージン	43	28	49	47	52	19

(注) (1) 本調査の対象期間は1988年10月から89年9月までである。

(2) Z/kgはキログラム当たり価格(ザイル)を意味する。

(出所) *Publication 22*, 24ページ, 第10表。

第20表 バンドゥンドン州からキンシャサ市場へのキャッサバ、トウモロコシ、落花生の流通に伴う価格水準の推移

	キャッサバ (コセット)		トウモロコシ (粒)		落花生 (殻つき)	
	Z/Kg	%	Z/Kg	%	Z/Kg	%
生産者価格	13.0	25.5	14.1	32.1	38.3	36.8
卸売価格	35.1	68.8	37.1	84.5	81.5	78.3
消費者価格	51.0	100.0	43.9	100.0	104.0	100.0
小売業者のマージン	15.9	31.2	6.8	15.5	22.5	21.7
集荷輸送業者のマージン	22.1	43.3	23.0	52.4	43.2	41.5

(注) (1) 本調査の対象期間は1987年10月から88年9月まで。

(2) Z/kgはキログラム当たり価格(ザイル)を意味する。

(出所) *Publication 8*, 14ページ, 第3表。

もっとも低く、トウモロコン流通業者のマージンが大きい⁽²⁰⁾。また総じてバンドゥンドゥ州よりもバ・ザイル州の方が生産者価格の割合が高いことがわかる。しかしいずれの州でも小売業者マージンの消費者価格に占める割合に大差はなく、両者の差は卸売段階で付加されるマージン率、すなわち集荷・輸送業者が手にするマージンの多寡によって説明される。

3. 集荷・輸送業者の性格

(1) 道路輸送業者

次にその集荷・輸送業者の性格について見よう。⁽²¹⁾まず、道路輸送業者の性格であるが、トラック管理者 (responsible) の多くは30歳～40歳の既婚男性である。彼らは多くの場合バンドゥンドゥ州かバ・ザイル州出身で、キンシャサに居住している。彼らが雇用、あるいは管理する従業員数は4～5人であり、一般に運転手、ボーイ (運転手見習い)、機械工等がそれにあたる。また、キンシャサに近い地域から来るトラックほどレンタカーの割合が高く、ルカヤ準州やカタラクト準州からのトラックのうち63%がレンタカーである。

トラックの集中度について見れば、「パーキング」に集まるトラックの80%は、所有トラック台数が3台以下の所有者に帰属しており、集中度は低い。「パーキング」に集まるトラックのほとんどすべては、年間を通じて農産物流通の仕事のみを行っている。トラックの集荷に関しては、1～数カ村を直接回って農産物を集める者が80%に達し、農村部の定期市で仕入れることは少ない。

集荷のためにトラックで回る経路について、50%が同じ道を通ることが多いと答えている。道路事情が相対的に良好なバ・ザイル州の場合特にその回答が多いが、バンドゥンドゥ州では悪路のために集荷経路がよく変わる。道中にはトラックが税金を支払わねばならない関所が幾つか存在するが、⁽²²⁾これはバンドゥンドゥ州よりもバ・ザイル州に多く、行き帰り2回とも支払

わねばならない。バ・ザイル州から来るトラックの大部分は、年間5万キロメートル以上走行する。バンドゥンドゥ州では道路状態が悪いため、走行距離はこれより少なくなる。

トラック部品の欠乏は深刻で、多くのトラックが故障したまま放置されている。また、トラックの過積載も著しく、特にバンドゥンドゥ州からのトラックは大部分が過積載であった。

(2) 河川輸送業者

大部分の河川輸送業者は、船長あるいは船の管理者という資格であり、所有者自身が乗船しているケースは17%に過ぎない。キンシャサ向けの輸送業者のうち70%がバンドゥンドゥ州出身者、17%がエカトゥール (Equateur) 州出身者である。輸送船の規模が大きくなるほど輸送業者の学歴は高くなり、職歴は長くなる傾向がある。

輸送用の船舶は大別して2種類が存在する。ガソリンで動く100トン以下の平底船 (baleinière) と、ディーゼルで動く100トン以上の大型船である。船舶の規模で25トン以下、25～100トン、100トン以上に分類すれば、それぞれの割合は28%、33%、39%であった。船舶の場合もトラックと同様集中度が低く、被調査船舶の95%が所有船舶数3隻以下の所有者に帰属していた。

ほとんどすべての平底船がバンドゥンドゥ州方面から来る (うちマイ・ンベ準州からの船舶が69%を占める) のに対し、100トン以上の大型船に関してはその50%がエカトゥール州から、10%が西カサイ (Kasai Occidental) 州からやって来る。大型船のうち88%が、輸送する農産物の中でトウモロコシ粒がもっとも重要だと述べている。キンシャサ市場に対しては、1～7月はバ・ザイル州およびバンドゥンドゥ州から、10～12月 (キンシャサ周辺地域は雨期で、作物栽培期にあたる) にはエカトゥール州など遠方から船舶輸送によってトウモロコシが供給されるのである。大型船による輸送量は巨大であり、100トン以上の船舶は平均して1隻当たり2600袋を積載していた。これは通常のトラック25台分にあたる。

平底船を利用する輸送業者が最も問題視しているのは燃料の問題である。しばしば地方ではガソリンが入手できず、キンシャサからガソリンを積んでゆかねばならないために、積載容量の大部分がこれに使われてしまうからである。

(3) パルコリ

パルコリの大部分は20歳から40歳の男子で、学歴は相対的に低い。農産物の買付けは、トラックを利用するパルコリの場合は自分の出身村をはじめとする村々を回って集めることが多く、船舶を利用するパルコリの場合は農村市場で買い付けることが多い。相対的に道路事情が良好で集荷トラックの来訪をある程度定期的に期待できるバ・ザイル州の場合、パルコリが農産物を買付けする地域や生産者は固定化する傾向にあり、それを販売する「パーキング」（卸売市場）も定まっていることが多い。一方、バンドゥンドゥ州では道路事情が悪い地域が多く、そのようなところでは集荷トラックが予定通り到着しないこともあってパルコリのリスクは大きい。バンドゥンドゥ州から来るパルコリの40%は、商品を販売する「パーキング」が定まっていないと答えている。

パルコリは組織化されない、自然発生的な小商人である。自らも農業を営むなど他の職業を持っているパルコリも多く、全体的にパートタイム的な性格を有する。多くの場合、パルコリは誰の仲介も受けずに直接小売業者に商品を販売するが、その際小売業者との個人的あるいは血縁上の結びつきはほとんどなく、したがってパルコリは毎回異なった小売業者に商品を販売すると考えてよい。また、72%のパルコリがこの仕事を始めてから8年に満たないと述べているように、パルコリの入れ替わりは激しく、特に近年は経済危機に伴ってその数が大幅に増加していると推測されている。

4. 集荷・輸送業者のパフォーマンス

(1) 道路輸送業者

ここでは、集荷・輸送業者のコスト分析に関する調査を整理する。トレンスらの調査では市場成果にあたる部分である。まず、道路輸送業者の農産物購入費以外の集荷コストの構造を第21表に示す。輸送業者がトラックを所有している場合はコスト全体の中で燃料費が突出しており、トラックが借用である場合は賃借料が燃料費以上に高いことがわかる。トラックを賃借している道路輸送業者の割合は、バ・ザイール州から来るもので6割前後、バンドゥンドン州からのもので3割前後に上るから、トラック賃借料は道路輸送業者の重要なコスト要因になっていることがわかる。⁽²³⁾

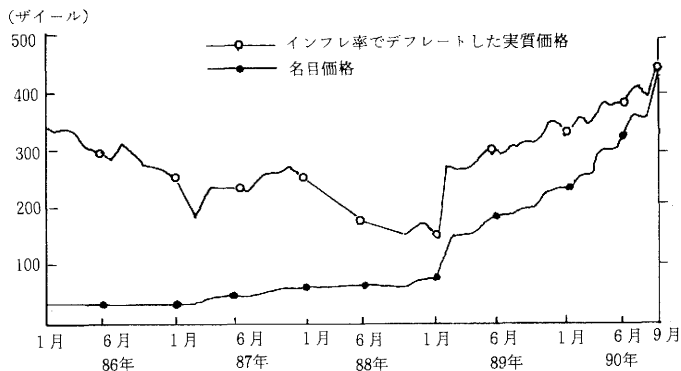
第4図に、1986年から90年までのガソリン価格の推移を示す。この間、政府がガソリン価格を管理していた1988年半ばまで実質価格は下落し、その後価格の自由化を開始して以降は上昇傾向にあることがわかる。一方、トラックの賃借料は、第5図に示すように、1987年以降トラック賃貸に伴うリスク

第21表 道路輸送業者の流動費用構造（1990年10—11月）
（％）

	トラック所有業者 （平均）	トラック賃借業者 （平均）
燃料費	69.2	27.9
部品代	5.7	1.0
修理代	7.9	3.3
トラック賃借料	0.0	56.0
従業員賃金	10.0	7.0
税金	4.9	2.1
宿泊料	1.6	0.5
その他	0.6	2.3
計	100.0	100.0

（出所） *Publication 26*, 37ページ, 第8表。

第4図 キンジャサにおけるガソリン価格推移（1986年1月～90年9月）

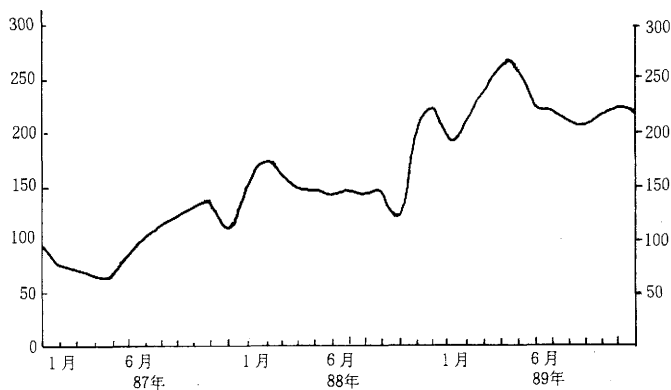


(注) 実質価格は、1990年9月を基準としてデフレートを行っている。

(出所) *Publication 26*, 39ページ, 第2図。

第5図 キンジャサにおけるトラック（6～8トン積）賃貸料の推移（1987年1月～89年12月）

(指数値：1987年1月=100)



(出所) *Publication 26*, 44ページ, 第4図。

とトラックの欠乏から高騰している。トラック賃貸に伴うリスクとは悪路が原因で生じる車両の故障であり、事実レンタカー会社の「エイヴィス」(AVIS)は1990年6月以降バンドゥン州向け食糧輸送用トラックの貸し出

第22表 道路輸送業者の平均旅程

	往復走行日数	集荷日数	計	キンシャサ滞在日数
バ・フルーヴ	2.3	1.3	3.6	2.3
カタラクト	1.6	1.1	2.7	1.4
ルカヤ	1.5	1.2	2.7	1.9
バ・ザイル州平均	1.7	1.2	2.9	1.8
クワンゴ	4.7	2.1	6.8	4.7
クウィル	4.0	2.0	6.0	3.5
その他	3.4	3.3	6.7	3.3
バンドゥンドゥ州平均	4.1	2.1	6.2	3.7
両州平均	2.1	1.7	4.6	2.8

(出所) *Publication 26*, 36ページ, 第7表。

しを中止している。これは、他の商品の輸送に利用する方が安全で収益が上がるためであるという。

次に輸送がどのように行われているのか、その実態を見よう。まず第22表に道路輸送業者の平均的な旅程を示す。バ・ザイル州への集荷を行う場合であれば、平均的には集荷地との間の移動に1.7日、集荷のために1.2日かかり、さらにキンシャサに到着後1.8日そこに留まることになる。バ・ザイル州に比べてバンドゥンドゥ州への集荷はかなりの日数を要し、1回の集荷を行うために10日程度を必要とすることがわかる。トラックが何を乗せているのか、を示したのが第23表である。ここから明らかなのは、トラックが自分の荷物のみならず、多数の商人(バルコリ)と一般の乗客とを乗せていることである。運搬する農産物の中で自分自身の荷物は一部に過ぎず、むしろバルコリの荷物の方が多い。

さて、道路輸送業者はどの程度の利益を得ているのだろうか。その推計のために第24表を示す。ここでは粗利益(旅客および搭乗商人の運賃、バルコリの荷物の運賃、および自分の荷物の売上げの合計)および流動費用が見積もられている。バ・ザイル州からの輸送業者の方がバンドゥンドゥ州からの業者に比べて1日当たりの利益が大きいことがわかる。例えばバ・ザイル州との

第23表 トラックが積載する農産物および乗客
(単位：乗客は人，農産物は袋)

	バ・ザイール州	バンドゥンドン州
<キンジャサ→農村部>		
旅行者	13.4	14.7
商人	10.5	4.1
計	23.9	18.8
<農村部→キンジャサ>		
旅行者	3.0	4.4
商人	11.6	5.3
乗客計	14.6	9.7
農産物 (トラック運転者所有)	21.9	36.2
農産物 (パルコリ所有)	97.0	74.2
農産物計	118.9	110.4

(出所) *Publication 26*, 45, 第11表および, 同, 46ページ, 第12表から作成。

第24表 道路輸送業者の平均純利益 (一往復当たり) 推計
(単位：ザイール)

	バ・ザイール州部	バンドゥンドン州
費用…①	319,882	502,194
粗利益…②	676,108	1,098,515
－乗客料金	(340,470)	(237,825)
－パルコリの荷物料金	(160,110)	(432,734)
－自分の荷物販売利益	(175,528)	(427,956)
純利益…②－①	356,226	596,321
1日当たりの純利益	122,836	96,181

(注) 「1日当たりの純利益」は、純利益を往復の旅程(第22表参照)で除して算出した。

(出所) *Publication 26*, 49ページ, 第13表。

間で輸送業を行う業者の1日当たりの純利益(粗利益－流動費用)を当時のレートでドル換算すれば約100ドルになるが、ここから固定費用や減価償却費を差し引いたものが従業員との間で分配されることになる。平均的なザイールの賃金労働者と比較すれば悪くない収入と言えるが、とりたてて収入が高いとも結論づけられない。特に、トラックを借りている業者であれば、

ここから賃借料を支払うことになる。本調査が行われた1990年10～11月段階で1日当たりのトラック賃借料はバ・ザイール州，バンドゥンドゥ州平均で20万z弱であったことを考えれば，トラックを賃借している輸送業者の場合，利潤は非常に小さくなると考えられる。

(2) 河川輸送業者

次に，河川輸送業者のパフォーマンスについて見よう。第25表に河川輸送

第25表 バンドゥンドゥ州およびエカトゥール州へ向かう河川輸送業者の平均的旅程
(単位：日)

	上り	貨物積載	下り	荷下ろし	計	キンジャサ滞在
クウィル	11.9	8.7	7.4	4.6	32.6	21.0
マイ・ンドンベ	8.0	10.6	6.0	4.2	28.8	14.6
その他	5.5	6.9	4.7	4.0	21.1	10.9
バンドゥンドゥ州平均	8.1	9.7	5.9	4.2	27.9	14.7
エカトゥール州平均	14.3	11.7	9.6	6.3	41.9	29.2
全体平均	9.8	10.2	6.9	4.8	31.7	18.4

(出所) Publication 26, 54ページ, 第14表。

第26表 河川輸送業者の平均純利益（一往復当たり）推計

(単位：1000ザイール)

	船舶トン数			平均
	0～25トン未満	25～100トン未満	100トン以上	
費用……①	1,502	1,342	3,773	2,345
粗利益……②	2,173	3,046	16,711	8,259
－乗客料金	(287)	(426)	(1,246)	(764)
－パルコリ荷物料金	(661)	(670)	(4,329)	(2,075)
－自分の荷物販売利益	(1,225)	(1,950)	(11,136)	(5,420)
純利益……②－①	671	1,704	12,938	5,914
1日当たり純利益	30	68	409	219

(注) 1日当たり純利益は，純利益を旅程（第25表参照）で除して算出した。

(出所) Publication 26, 58ページ, 第19表。

第27表 キンジャササまでの乗客料金およびコセット (1kg) 買付け価格の県別、交通機関別比較
(単位：ザイール)

ト		ク		船		船		
県名	乗客料金	買付け価格	県名	乗客料金	買付け価格	州・県名	乗客料金	買付け価格
バ・ザイール州								
カサンダール	1,509	162	ケンダ	5,375	73	ムシエ	5,778	66
ソングロロ	2,731	149	マシ・マニンバ	6,050	76	ボロボ	6,807	82
ンバンザ・ンダング	2,987	172	バガタ	6,667	81	クトウ	6,275	58
マディンバ	3,355	159	ボボカバカ	8,062	74	イノンゴ	7,353	68
キンザラ	4,905	119	ブルンダ	8,403	76	キリ	8,050	58
ルオジ	6,900	165	イディオファ	11,226	77	オシユエ	8,152	60
ルクラ	7,051	133	カヘンバ	15,333	72	西カサイ州	14,942	62
チェラ	8,069	—	カソング・ルンダ	21,278	71	エカトウール州	21,453	61
セケ・バンザ	9,375	136				オ・ザイール州	33,000	—
州平均	3,290	153	州平均	7,908	78	平均	11,600	64

(出所) Publication 26, 61~62ページ, 第21・22表から作成。

業者の平均的な旅程を示す。バンドゥン州へ集荷に行く河川輸送業者の場合、川を遡航して目的地に着くまでが8.1日、目的地で荷を積むのに9.7日、キンシャサに戻るのに5.9日、荷下ろしに4.2日、そして荷下ろしが終わった後もキンシャサに2週間程度留まっていることになる。トラックの場合と同様、船舶も一般の乗客やパルコリを多数乗せており、輸送する農産物の内容も自らの荷物よりもパルコリのものの方が多い。河川輸送業者の利益を推計したのが第26表である。船舶輸送業は多額の投資を必要とするにもかかわらず、その純利益はそれほど高くはないが、これはキンシャサに長く留まるなどのために農村地域との間での往復が少ないためである。

(3) パルコリ

最後にパルコリのパフォーマンスについて見る。まず、パルコリの費用を推計するために、第27表にキンシャサまでの乗客料金とコセットの買付け価格を別別に示す。パルコリはトラックや船舶に農産物を手荷物として持ち込んでキンシャサまでやって来るため、単純に考えれば乗客料金と手荷物料金、そして農産物の買付け料が彼のコストとなる。この表では、乗客料金はキンシャサに近いほど安い一方、コセット買付け価格はキンシャサから遠く

第28表 パルコリの集荷先別純利益（一往復当たり）推計

（単位：1000ザイール）

利用交通機関 集荷先	トラック			船舶		
	バ・ザイー ル州	バンドゥ ン州	平均	バンドゥ ン州	その他	平均
費用……①	252	505	378	836	2,004	1,170
－購入費	(165)	(262)	(213)	(566)	(1,389)	(801)
－輸送費	(87)	(243)	(165)	(270)	(615)	(369)
粗利益……②	357	730	543	1,471	3,710	2,112
純利益……③ (②－①)	105	225	165	634	1,705	941
往復日数……④	4.4日	8.7日	6.6日	29.1日	33.2日	30.2日
1日当り純利益……③/④	24	26	25	22	51	31

（注） 往復日数とは、行き帰りに必要な日数と集荷に要する日数との合計である。

（出所） *Publication 26*, 60ページ, 第20表, および65ページ, 第25表より作成。

なるほど安くなる傾向にある。そのため、買付け料と輸送費との合計が販売価格に占める割合はどの地域から来るパルコリの場合でも7割程度である。⁽²⁴⁾つまり、パルコリの利益率はどの地域から来る場合でもあまり変わらないのである。第28表でパルコリの純利益推計を示す。ここでも、トラック、船舶を問わず、いずれの地域から来るパルコリの場合でも1日当たりの純利益に換算すれば大差なく、僅かなものに過ぎない。

第3節 キンシャサの小売市場

トレンスらの一連の報告書では、キンシャサの市場は扱われる商品の単位によって卸売市場 (marché demi-gros) と小売市場とに分けられている。卸売業者に関する報告書もあるが、⁽²⁵⁾キンシャサの場合、卸売業者あるいはその機能を集荷・輸送業者や小売業者と峻別して論じることは困難である。そこで本節では、ここまで生産局面、流通局面と調査を整理してきた関係上、小売市場における農産物流通関する調査に絞って整理することとした。⁽²⁶⁾

1. 調査方法

小売業者は、袋、樽、洗面器、籠といった相対的に大きな単位で商品を購入し、それを小売市場においてコップ、ビン等々の小さな単位で販売する商人だと定義されている。後述するように、小売業者は商品を並べるテーブルを持つことを義務づけられているが、実際は地面に商品を並べて販売する者も多い。本調査ではテーブルを持たない小売業者も調査対象に含めている。1000人も小売業者が調査対象となったが、小売業者にアプローチするための調査対象市場の選定は以下の方法で行われた。まず、売り手が15人以上存在する市場 (工場の前や大通りなどに並ぶ青空食堂は除外した) をすべてリストアップし、その中から食料品販売市場を選別する。そしてそれらを、売り手

の数によって1000人以上、500～999人、100人～499人、100人未満、の4段階に分割する。次に、総小売業者数に占める各段階の小売業者数の割合を算出し、総調査対象数1000をその割合に応じて分ける。そして各段階から無作為に数市場ずつ選ぶのである。

こうして選定された市場において小売業者への聞き取りが行われるが、その方法は次のとおりである。まず、テーブルを持った小売商人の場合は、奇数のテーブル番号に位置する商人を調査対象とする。地面に商品を広げている場合は、並んで販売していることが多いので、やはり端から1番目、3番目という具合に奇数番目の商人を調査対象とする。そして各市場に割り当てられた調査数に達するまで調査が続けられる⁽²⁷⁾。その際、キャッサバ（コセツト、キャッサバ粉なども含む）、トウモロコシ、オイル・パーム、インゲン、米、キャッサバの葉、ンガイ・ンガイ (ngai-ngai)、ビテク・テク (biteku-⁽²⁸⁾teku)、そしてバナナを販売する商人のみを対象とする。

2. 小売市場の活動

キンシャサの小売市場の規模は、1973年から75年にかけて行われたザイール化政策以降急速に拡大したと言われている。それ以前の段階では、食糧品は主としてポルトガル人やギリシャ人が経営する商店で販売されていたが、ザイール化政策によってそれらの商店が接収されザイール人の所有に代わった。しかし、商店を接収したザイール人はその経営にあまり関心を示さず、結局いわゆるマーケット・マミーによる小売市場での販売活動が活発化したという。また、経済情勢の悪化やキンシャサの急激な人口増も小売市場拡大を促した。1989年5月に行われた調査では、キンシャサ市で最も規模の大きい小売市場は中央市場 (Marché Central) で売り手の数は1万5513人、それに次いでガンベラ (Gambela) 市場の4632人、ソンバ・ジキダ (Somba Zikida) 市場の4018人、マテテ (Matete) 市場の3602人、レンバ (Lemba) 市場の2125人と続く。1985年の調査によれば⁽²⁹⁾、キンシャサの小売市場の数は85、売り手は

7万1787人に上る。特に近年は、最も簡便な女性の現金稼得手段として小売業に参入する人々が増加している。小売業者は、市場全体に対する独占・寡占力を持ち得ないのは勿論のこと、地域的にも独占・寡占力を持ち得ないと考えてよい。キンシャサの小売市場はきわめて競争的なのである。

市場で商売を行うためには、原則として商品を陳列するテーブルを持たなければならない。小売市場を行政的に管轄するのはキンシャサ市の区 (zone) であるが、商人は区の指定業者からテーブルを購入し (指定のテーブル製造業者は、売上高の1割を区に上納する)、区が定める期間ごとにテーブルを買い換えねばならない。テーブル以外にも、市場を利用する売り手は1日20z (1988年)の税金を収めなければならない。不払いの場合は商品を没収される。

市場の活動はだまかに3つに分けられる。市場は公式には8時30分～16時30分に開かれるが、6時には既に朝市が立つ。ここでは、シクワングや近場産の塩漬け魚の卸売りが主として行われ、大体8時頃まで続く。市の回りのレストランではコーヒーやパンも売られる。狭義の市は9時頃から開く。14時頃まで取引が活発に行われ、それ以降はやや人通りが少なくなる。商人はおおむね16時30分から17時頃に店をたたむ。毎週、火曜と土曜にはサロンゴ (salongo) と呼ばれる奉仕活動があり、商人達は市場を清掃しなければならない。これを拒否したものは2日～1週間の活動停止を命じられることがある。市場がひけたあと、テーブル上ではなく直接地面に商品を並べて行われる取引が夕市である。一般に、腐りやすい食料品が販売されるが、値段は安く、税金はかからない。

小売業者、特に食糧の売り手のほとんどは女性であるが、これは食糧の生産や販売が伝統的に女性の役割であったことが影響していると考えられる。ただし、パーム・オイルの売り手では若干男性が増える。売り手の91%はザイール人で、外国人の中ではアンゴラ人が多い。ザイール人小売業者の出身地としてはバ・ザイール州が最も多く (51%)、バンドゥンドゥ州 (21%)、東カサイ州 (10%)、エカトゥール州 (8%)、がそれに続く。小売業者の出身地域と販売品目との間にはある程度対応関係が見られ、例えばトウモロコ

ン販売人の50%は東西のカサイ州出身である。また、バンドゥンドゥ州出身者はキャッサバ、落花生販売を行うことが多く、キヴ州出身者は米とインゲンの販売に集中し、地場産の魚販売はエカトゥール州やオ・ザイル州出身者が行う傾向がある。こうした特化は、販売者が仕入れに際して生産者との間に人的関係が必要とされるためであろう。

教育水準について言えば、小売業者の48%は最終学歴が小学校以下、43%が中学校卒業以下と教育水準は一般に高くない。教育程度の高い者は、短期間小売業で働いてもその後より収益の上がる卸売業へと移動してゆく。また、小売商人にとっての小売業の重要性については、30%の商人が彼らにとって小売業が唯一の収入源だと回答し、37%が主たる収入源だと答えている。小売業への依存度が高いため、景気が悪化して商品が売れなくなっても、あるいは利益が自らの労働費に満たない水準になっても、市場から撤退することができない。何としても自分の商品を売らねばならないのである。さらに最近では、先述したように、全般的な経済悪化とともに小売業への流入者が増加する傾向にある。また、小売業を一種の貯金と考えている者もいる。彼らは賃金が支払われた際にその収入で商品を購入し、その後少しずつ市場で販売する。こうすれば1カ月の間規則的に収入を得られるというわけである。

3. 小売業者の純利益

次に小売業者の純利益推計を試みる。そのためには、小売業者の費用を把握しなければならない。ここでは、小売業者の費用を測定可能なものと不可能なものに分け、さしあたり前者のみを商人からの聞き取りによって推計したうえで、それを粗利益（販売収入と商品購入費との差）から差し引いて純利益を推計している。小売業者の測定可能な費用として考慮されているのは、テーブル代、日払い税、輸送費（小売業者自身の移動費、商品の輸送費、ポーター代）、包装費、貯蔵費、および預金費用である。

小売業者は、商品を陳列するテーブルを持つことが義務づけられている。テーブル代は1990年末の段階で5300 z。これを借用する商人も全体の3割以上にのぼり、借用料は1日50 zと見積もられている。テーブルは市場を管理する区の命令で交換させられ、小売商は交換の度に新たにテーブルを購入しなければならない。ただし、テーブルを持たずに販売している商人も全体の2割程度存在する。小売業者の多くはテーブルの交換が早すぎると不平を言っている。

また、キンジャサの市場に関する税金は、法的な根拠を持つ公的な税と恣意的な税とが混在しているため、きわめて複雑で市場ごとに異なっている。市内で一般的に見られる税金としては、衛生税（四半期ごとに支払う。1000 z）と財政税（日払い。50～100 z）がある。その他にも、区が自らの資金的必要に応じて恣意的に税を賦課することがあるようだ。包装は、紙、葉、ビニール袋などで行われるが、どの程度の出費があるかはあまり把握されていない。貯蔵費とは購入した商品を倉庫に保管する際の料金であり、預金費用とは現金をまとめて手元に置かず他人に預かってもらう際に支払う手数料を指す。

それ以外に、測定不可能なコストとして次のようなものがあげられている。商品購入時の卸売業者によるごまかし。保管中の品質低下。急に資金が必要となり安値での販売を余儀なくされる場合。商品の損耗がどの程度になるかについても測定困難であるとされている。

上記のコストを考慮して、小売業者の純利益を推計したものが第29表および第30表である（第30表で、第29表の「他の費用」の部分が推計されている）。ここでは、先の10品目のうちキャッサバ、トウモロコシ、落花生、米、バナナ、パーム・オイル、野菜、インゲンの小売業者についての調査がまとめられている。1日当たりの純利益は平均して2178 z（当時の非公式レートで250円程度）と微々たるものであることがわかる。ただし、小売業者のパフォーマンスを小売段階で賦課されるマージンという見地からみれば、その消費者価格に占める割合は以外に大きい。第31表に消費者価格に占める小売業者のマージンの割合を示す。低くても10%台、高いものになると60%以上のマージンが賦

第29表 キンシヤサの小売市場における小売業者の純利益推計

(単位：ザイール)

販売品目	キャッサバ	トウモロコシ	米	落花生	バナナ	パーム・オイル	野菜	インゲン	平均
販売収入	47,187	73,357	64,719	55,802	57,466	133,976	26,789	90,336	64,199
商品購入費	31,694	48,912	54,870	39,146	37,737	88,852	17,082	83,945	47,598
粗利益	15,493	24,445	9,849	16,656	19,729	45,124	9,707	6,391	16,601
他の費用	7,971	8,567	7,500	7,859	10,139	11,122	4,786	10,547	8,760
純利益	7,522	15,878	2,349	8,797	9,590	34,002	4,924	-4,156	7,841
販売日数	2.7	3.3	3.6	3.2	4.3	6.2	2.2	5.1	3.6
1日当たり純利益	2,786	4,812	653	2,749	2,230	5,484	2,238	-815	2,178

(注) (1)本調査は1990年10月に行われた。

(2)野菜 (legumes) が具体的に何を指すかについての説明はない。

(3)原表の計算上の誤りは訂正した。

(4)1990年10月段階の公定レートは1ペルギー・フラン (約4円) = 23ザイール、闇レートでは1ペルギー・フラン = 35ザイールであった。

(5)原表は第30表と同じ。したがってサンブル数も同じ。第30表は本表の「他の費用」に関する分析である。

(出所) Publication 25, 37ページ, 第4表より作成。

第30表 キンシヤサ市場における小売業者の費用構造

(単位：ザイール)

	キャッサバ	トウモロコシ	米	落花生	バナナ	パーム・オイル	野菜	インゲン	平均
1. 毎支払う費用 (1日当たり価格)									
小売業者の移動費	227	304	297	287	257	216	372	296	285
貯蔵費	87	89	61	63	34	60	49	74	67
包装費	188	195	600	462	27	238	32	625	38
ポーター代金	165	176	195	181	179	179	101	191	169
税金	100	100	100	100	100	100	100	100	100
テンプル代	50	50	50	50	50	50	50	50	50
合計・・・①	817	914	1,303	1,143	647	843	704	1,336	709
販売日数・・・②	2.7	3.3	3.6	3.2	4.3	6.2	2.2	5.1	3.6
①×②	2,206	3,016	4,691	3,658	2,782	5,227	1,549	6,814	2,552
2. 商品の輸送費	919	954	648	696	1,459	1,521	490	687	853
3. 損耗	4,719	4,401	1,942	3,348	5,747	4,019	2,679	2,710	3,558
4. 預金費用	127	196	219	157	151	355	68	336	1,797
総計	7,971	8,567	7,500	7,859	10,139	11,122	4,786	10,547	8,760
サンプル数	185	115	133	126	80	81	147	133	1,000

(注) ①)原表にある計算上の誤りは修正した。

②)費用の内容については本文を参照のこと。

③)「野菜」(legumes)が具体的に何を指すのかは説明されていない。

④)損耗は、キャッサバ、バナナ、野菜については10%、トウモロコシと落花生については6%、米、パーム・オイル、インゲンについては3%と仮定した。

⑤)預金費用については、全員が月当たり商品購入額の0.4%をこれに当てると仮定した。

⑥)原表は第29表と同一。本表は第29表の「他の費用」についての調査である。

(出所) Publication 25, 38~39ページ, 第4表(続)から作成。

第31表 消費者価格に占める小売マージンの割合

(%)

	1984年	1985年	1986年	1987年	1988年	1989年
キャッサバ(バンドゥンドゥ産)	17.8	22.3	25.4	32.2	43.3	44.8
(バ・ザイル産)	-	13.4	18.0	20.0	24.9	34.7
トウモロコシ粒	11.5	12.8	16.3	16.1	20.8	15.4
殻つき落花生	14.6	28.0	24.8	26.4	20.3	24.8
国産米	13.7	12.4	15.2	15.6	21.8	22.4
白インゲン	11.1	8.3	12.5	24.5	31.5	29.6
色つきインゲン	12.8	11.3	15.3	17.1	25.4	24.0
プランテン・バナナ	35.4	19.8	45.8	36.6	20.7	33.6
生食用バナナ	55.3	39.2	52.1	45.6	39.2	23.7
パーム・オイル	20.3	22.1	32.1	34.5	46.1	65.4
トマト	61.0	37.0	32.0	34.0	37.4	46.4

(注) 数値はいずれも年平均割合である。

(出所) *Publication 25*, 42ページ, 第5表。

課され、さらに最近になるに従ってそれが増加していることがわかる。小売段階のマージンが近年増加しているのは、小売業者が取扱う商品の量が縮小しているからだ⁽³⁰⁾とトレンスらは主張している。小売業者の取扱い量が減少し、その結果商品1単位当たりのマージンが増大したのである。その理由として彼らは3つの要因をあげている。すなわち、①経済危機のため購入規模が小さくなったこと、②売り手の数の増大により、1人の売り手の販売量が減少したこと、③卸売市場で直接購入する人が増え、小売市場における需要が減少したこと、である。売り手数の増大は、経済危機のために何らかの現金稼得手段を求めて小売りの仕事に就く人々が増えた結果であり、また消費者による卸売市場での直接購入が増えたのも少しでも安価な食糧を求める行動の結果である。上記の行動は、いずれも近年の経済危機の深化に伴って生じたものと言えよう。

若干のまとめ

最後に、本調査を整理する中で明らかになった点をいくつか指摘して結びに代えたい。まず、生産局面に関する調査の中で明らかになったのは、キャッサバ、トウモロコシ、落花生の生産、販売面における重要性であった。キンシャサの周辺地域であり、キンシャサへの主たる食糧供給地域であるバ・ザイル州とバンドゥンドン州においては、ほとんどの農家で上記の3作物を栽培しており、かつキャッサバの販売額が突出して大きい。一方、特にバ・ザイル州農村部では米を購入する農家が目立つようになっている。一般に、舗装道路沿線地域など、市場とのアクセスが有利な地域において販売活動が活発である。

3作物の商品化に関しては、いずれの地域でも販売に回される部分の割合はかなり高い。キャッサバについては、カタラクト準州における商品化率が著しく高いほか、その他の地域でも3割～4割に達している。トウモロコシ、落花生についても商品化率は3割～8割に上る。キンシャサ周辺農村部においては、商業的農業が相当程度発展していると言えよう。ただし、本稿では十分に紹介できなかったが、農産物の販売部分が増加しても土地利用をはじめとする農法に関しては著しい変化が見られないことにも注意を向ける必要がある。

集荷・輸送活動に関しては、トラックを用いる道路輸送業者、船舶を利用する河川輸送業者、およびパルコリという主として3つのルートを通して、キンシャサへ食糧が供給されていることが明らかになった。いずれのタイプの輸送業者も集中度が低く、流通機構における組織化は進んでいない。卸売市場の市場構造は競争的であると言える。一方、輸送業者の利潤はあまり大きくはなく、商人による資本蓄積という図式は少なくとも最近に関する限り適切とは言い難い。⁽³¹⁾

食糧の小売活動は主として女性によって担われるが、ここで獲得される利益も微々たるものである。しかし、利益が僅かであるにもかかわらず、消費者価格に占める小売段階のマージンの割合は大きく、しかも近年それが増大する傾向にある。この主たる原因は、近年経済危機の深化に伴って、都市に

別表 ザイール貨の対ドルレート推移
(1985年第Ⅰ四半期～91年第Ⅱ四半期)

年	四半期	1ドルのザイール貨価値
1985	Ⅰ	44.6
	Ⅱ	48.5
	Ⅲ	52.0
	Ⅳ	54.0
1986	Ⅰ	55.3
	Ⅱ	55.9
	Ⅲ	60.7
	Ⅳ	66.6
1987	Ⅰ	85.7
	Ⅱ	111.8
	Ⅲ	123.4
	Ⅳ	128.5
1988	Ⅰ	141.7
	Ⅱ	171.9
	Ⅲ	201.0
	Ⅳ	233.7
1989	Ⅰ	309.9
	Ⅱ	366.8
	Ⅲ	404.9
	Ⅳ	444.2
1990	Ⅰ	482.2
	Ⅱ	545.9
	Ⅲ	644.2
	Ⅳ	1,202.1
1991	Ⅰ	2,843.5
	Ⅱ	4,237.4

(注) ザイール貨価値は四半期ごとの平均値である。

(出所) IMF, *International Financial Statistics*, ワシントンD.C., 各年版から作成。

居住する女性が最も身近な現金稼得手段として食糧小売業に数多く参入し、そのために販売効率が低下したことによる。キンシャサの小売市場はきわめて競争的であるが、それが必ずしも資源の最適配分を保証していないのである。

[注]

- (1) Guiyer, Jane I. 編, *Feeding African Cities: Studies in Regional Social History*, ロンドン, Manchester University Press, 1987年, 21ページ。
- (2) Nzongola-Ntalaja 編, *The Crisis in Zaire: Myths and Realities*, トレントン, Africa World Press, 1986年, 4ページ。
- (3) 生産局面については、ザイール農業省が行った一連の州別農業生産調査(Mouvement Populaire de la Révolution, République du Zaire, Département de l'Agriculture et du Développement Rural, *Région du Bas-Zaire; Etude régionale pour la planification agricole*, キンシャサ, 1986年や, 同, *Région de Bandundu; Etude régionale pour la planification agricole*, キンシャサ, 1983年など)が存在する。一方, 流通や市場に関しては, キンシャサを対象とする地理学的研究 (Pain, Marc, *Kinshasa; La ville et la cité*, パリ, Edition de l'ORSTOM, 1984年/de Maximy, René, *Kinshasa, ville en suspens... Dynamique de la croissance et problèmes d'urbanisme*, パリ, Edition de l'ORSTOM, 1984年など)の中で若干触れられる程度で, 本格的な研究はこれまで存在しない。
- (4) 本調査が終わりに近づいた1990年5月, ザイールで学生の虐殺事件(ルブンバシ事件)が発生し, これを重くみたベルギーは人権抑圧に抗議して援助の凍結を表明した。一方ザイール側はこの措置に反発してベルギー人援助関係者の退去を命令し, 両国間のあらゆる援助は中止に追い込まれてしまった。その後は, キンシャサのUSAIDがこの調査を引き継ぎ, トレンスらはベルギーでデータを整理して報告書を発行した。
- (5) 競争構造分析に関しては, 例えば高橋伊一郎「分析方法について—競争構造分析の展開と問題—」(『昭和後期農業問題論集⑩農産物市場論I』農山漁村文化協会, 1982年)155~172ページ, を参照のこと。
- (6) 本章の注および図表においてトレンスらの報告書を引用する場合, 統計資料集の場合はStatcom, 問題群別報告書の場合はPublicationとして, その後に報告書の番号を付すことにする(例えば, 統計資料集の第5号からの引用であれば, Statcom 5と記す)。

- (7) ザイールの行政区分は州 (région) — 準州 (sous-région) — 県 (zone) — 郡 (collectivité) — 郷 (localité) という構成をとる。
- (8) Statcom 9。
- (9) 調査方法についてはいくつかの報告書で触れられているが、ここでは *Publication 4* の説明を参照した。
- (10) この意味するところは若干曖昧だが、両州の行政区分リストなどに基づいて、行政単位を機械的に二等分するということであろう。
- (11) この5ないし10カ村がどのような基準で選ばれるのかは説明されていない。
- (12) 準州ごとの抽出農家世帯の内訳は次のとおりである。

バ・ザイール州

準 州 名	抽 出 世 帯 数	全 農 業 世 帯 数
バ・フルーヴ	375	92,616
カタラクト	385	110,609
ルカヤ	210	64,100
都市部 (マタディボマ)	70	14,853
計	1,040	282,178

バンドゥンドゥ州

準 州 名	抽 出 世 帯 数	全 農 業 世 帯 数
クワンゴ	295	114,000
クウィル	615	272,842
マイ・ンドンベ	265	110,797
都市部		
キクウィット	80	5,777
バンドゥンドゥ	50	2,441
計	1,305	505,857

(出所) *Publication 4*。

- (13) 本調査で用いられる世帯概念について簡単に説明しておこう。本調査では、世帯は食糧需要を満たすために行動する集団として捉えられる。単純化して言えば、農村においては農業経営単位を、都市部においては食糧調達単位がこれにあたる。すなわち、1人で居住していても独立した農業経営単位と見なしうる場合にはそれを1世帯と考えるし、共同で居住していても各々が別個の農業経営主体と見なせるか、食糧調達に関して独立していると考えられる場合は別の世帯と考える。逆に、ある集団あるいは個人が、他の集団あるいは個人にその食糧調達が依存している場合は、前者は世帯と見なさず、後者の世帯に含めて考えられる。

- (14) これは地域間の所得格差をそのまま示すものではない。実質的な所得格差を検討するためには、他の所得要因（例えば出稼ぎ収入）の考察とともに、地域的な消費者物価水準の差異も考慮する必要がある。
- (15) 各流通段階ごとに要した費用と実現した利潤の和を取引段階ごとのマージンと呼び、その全流通過程における総和が中間マージンと呼ばれる。すなわち、小売価格（消費者価格）と生産者受取価格（生産者価格）との差が中間マージンにあたる（農政調査委員会編『農業統計用語事典』農山漁村文化協会、1975年、227ページ）。
- (16) *Publication 29*を参照のこと。
- (17) ここで卸売市場と小売市場と述べたが、これを例えば日本の農産物流通のような整然とした流通段階として捉えるべきではない。卸売市場とは言っても、大規模な小売市場に隣接する駐車場に農産物を積んだトラックが明け方到着すると、その駐車場が卸売市場と呼ばれるのである。ここには、主として小売業者が商品を仕入れに来るが、一般の消費者が直接ここで購入するケースも多い。買参人の資格には何等の法的規制もなく、要するに販売の単位が小売市場に比較して相当程度大きいことが両者を分別する基準となる。実際、報告ではこの市場は“*Marché de demi-gros*”という言葉で表現されており、これはより正確には「仲卸市場」あるいは「仲立市場」とでも訳すべきものである。しかしいづれも用語として混乱を招きかねないことから、本稿ではさしあたり「卸売市場」と表現しておく。
- (18) トレンスらの報告では、価格水準は常にインフレ率でデフレートした上で比較されている。
- (19) 調査方法について詳しくは*Statcom 11*、同*12*、同*13*を参照のこと。質問表を含めてより詳細に説明されている。
- (20) トウモロコシ流通段階のマージン率が高いのは、小売段階に達する以前に製粉工場を経由するからだと言われている。
- (21) 以下の集荷・輸送業者の性格に関する記述は、*Publication 26*による。
- (22) この関所自体、不法なものであることが多い。
- (23) *Publication 26*, 38ページ、第9表。
- (24) *Publication 26*, 64ページ、第24表。
- (25) *Publication 27*を指す。
- (26) 本節の内容は主として*Publication 25*と*Statcom 15*に依拠している。
- (27) 選定された市場名とそれぞれの市場における調査数は、質問表とともに*Statcom 15*に掲載されている。
- (28) ンガイ・ンガイ、ビテク・テクはいずれもこの地域でよく利用される野菜である。
- (29) Kanene, M., “Les marchés de Kinshasa; structure, location et leur rôle dans

la distribution des biens et des services, thèse de doctrat, Faculté des Sciences, Université de Liège, 1990年, 408ページ。

⑩ *Publication* 25, 52ページ。

⑪ ザイールにおける資本蓄積に関して、例えばシャツバーグは政治権力と結びついた商人層による蓄積という図式を提出している (Schatzberg, Michael G., *Politics and Class in Zaire; Bureaucracy, Business and Beer in Lisala*, ニューヨーク, Africana Publishing Company, 1980年)。

報告書のタイトル

以下、本稿における紹介を若干なりとも補うために、報告書のタイトルを訳出する。先述したように、報告書は「問題群別報告書」(*Publication*) 29冊と「統計資料集」(*Statcom*) 19冊に分かれている。報告書の団体著者(出版者)は、ベルギーによる援助引上げの影響から、「問題群別報告書」のNo. 1～No. 18と「統計資料集」のNo. 1～No.10では、Mouvement Populaire de la Révolution, République du Zaire, Département de l'Agriculture, Direction des Marchés, Prix et Credits de Campagne (革命人民運動, ザイール共和国, 農業省, 市場・価格および農村金融局)に、それ以降の巻では, Katholieke Universiteit Leuven, Centre de Recherche en Economie Agricole des Pays en Voie de Développement, Faculté des Sciences Agronomiques (ルーヴァン・カトリック大学, 発展途上国農業経済研究センター, 農学部)になっている。発行地は明記されていない。なお、これらの報告書の取得については、

Projet "Commercialisation des Produits Agricoles"

Centre de Recherche en Economie Agricole des Pays en Voie de Développement
(C. L. E. O. O.),

Faculté des Sciences Agronomiques,

Katholieke Universiteit Leuven,

Kardinaal Mercierlaan 92,

3001 Heverlee,

Belgique,

tel: 016/220931 ext. 1616 fax: 016/205032

に問い合わせられたい。また、これらの報告書はアジア経済研究所図書資料部でも閲覧可能である。

〔問題群別報告書 (*Publication*)〕

1) 「キンシャサ市場に関する主要食糧価格の季節変化」1988年4月, 31ページ。

2) 「クウォル, クワンゴ準州, およびキクウィット, バンドゥンドゥ市における伝統

- の農民の農産物販売」1988年9月, 37ページ。
- 3) 「マイ・ンドンベ準州における伝統的農民の農産物販売」1988年11月, 20ページ。
 - 4) 「バンドゥンドゥ州におけるトウモロコシおよび落花生の生産(1987年10月～1988年9月)」1989年11月, 23ページ。
 - 5) 「キンシャサ主要市場における食糧価格水準の比較」1988年12月, 27ページ。
 - 6) 「バンドゥンドゥ州における主要農産物の生産と販売」1989年1月, 28ページ。
 - 7) 「バンドゥンドゥ州における伝統的農民の農業販売収入(キャッサバ, トウモロコシ, 落花生)」1989年5月, 38ページ。
 - 8) 「バンドゥンドゥ州におけるキャッサバ, トウモロコシ, 落花生の生産者価格とキンシャサ市場向け中間マージン」1989年9月, 50ページ。
 - 9) 「バンドゥンドゥ州におけるトウモロコシおよび落花生生産物の用途」1989年9月, 31ページ。
 - 10) 「バンドゥンドゥ州におけるキャッサバの生産・販売量に関する分析」1989年10月, 35ページ。
 - 11) 「キンシャサの一小売市場における販売者, 購入者の構造的側面: ソンバ・ジキタ市場の事例」1989年10月, 24ページ。
 - 12) 「キンシャサにおける食糧価格分析(1961-1989年)」1989年11月, 36ページ。
 - 13) 「バンドゥンドゥ州農民レベルでのキャッサバ, トウモロコシ, 落花生に関する販売, 購入条件の諸側面」1989年11月, 29ページ。
 - 14) 「バ・ザイル州農民の生産要素(土地, 資本, 労働力)」1989年12月, 78ページ。
 - 15) 「バ・ザイル州農業の全体的側面」1990年2月, 39ページ。
 - 16) 「バンドゥンドゥ州の農業経営パフォーマンスに関する世帯構成の影響」1990年3月, 33ページ。
 - 17) 「キンシャサ市場における主要食糧価格サイクルの構成要素分析(1961～1988年)」1990年4月, 42ページ。
 - 18) 「バンドゥンドゥ州における農業経営の主要な特徴の分散とサンプル数および研究方法に対する影響」1990年6月, 47ページ。
 - 19) 「キンシャサにおける食糧小売・仲卸価格の数量経済学的分析(1984-1989年)」1990年4月, 59ページ。
 - 20) 「バ・ザイル州における食糧生産(1988年10月～1989年9月)」1991年1月, 48ページ。
 - 21) 「バ・ザイル州における伝統的農民の農業所得(1988年10月～1989年9月)」1991年1月, 57ページ。
 - 22) 「バ・ザイル州における食糧価格とキンシャサ市への中間マージン」1991年1月, 49ページ。
 - 23) 「バ・ザイル州における食糧の販売量(1988年10月～1989年9月)」1991年1月,

63ページ。

- 24) 「バ・ザイル州の農業人口構造と農業経営パフォーマンスに関する影響」1991年1月, 33ページ。
- 25) 「キンジャサにおける食糧の小売流通」1991年1月, 72ページ。
- 26) 「キンジャサ向け食糧の集荷と輸送」1991年1月, 88ページ。
- 27) 「キンジャサ向け食糧仲卸業者の構造, 行動, 成果」1991年2月, 33ページ。
- 28) 「バンドゥンドゥ州, バ・ザイル州およびキンジャサの農業地図」1991年4月, 127ページ。
- 29) 「キンジャサへの食糧供給システム: まとめ, 結論, 提言」1991年4月, 35ページ。

〔統計資料集 (Statcom)〕

- 1) 「バンドゥンドゥ州およびキンジャサにおける農産物価格統計」1989年1月, 統計番号1-30+iiページ。
- 2) 「バンドゥンドゥ州『販売』アンケート一付属」1989年1月, 統計番号31-118+viiiページ。
- 3) 「バンドゥンドゥ州における伝統的農民の農産物(キャッサバ, トウモロコン, 落花生)販売収入一付属」1989年5月, 統計番号119-183+iページ。
- 4) 「バンドゥンドゥ州におけるキャッサバ, トウモロコン, 落花生の生産と販売に関する統計(1987年10月~1988年9月)」1989年8月, 統計番号184-246+xページ。
- 5) 「バンドゥンドゥ州における農民の販売・購入条件の諸側面」1989年9月, 統計番号247-382+xiページ。
- 6) 「バ・ザイル州『販売』アンケート(一般的質問と農事暦)」1989年10月, 統計番号383-431+viiiページ。
- 7) 「バ・ザイル州『販売』アンケート(作物別質問)」1989年10月, 統計番号432-490+viiiページ。
- 8) 「キンジャサにおける主要食料品の卸売価格, 小売価格および小売マージン, その季節変動(1984年~1989年)」1990年4月, 統計番号491-544+ivページ。
- 9) 「バンドゥンドゥ州およびバ・ザイル州における気象条件(1975年~1989年)」1990年5月, 統計番号545-572+viページ。
- 10) 「バンドゥンドゥ州における農業経営の主要な特徴の分散とサンプル数および研究方法に対する影響」1990年1月, 統計番号573-621+viページ。
- 11) 「キンジャサへの食料品の『道路輸送業者』に関するアンケート」1990年12月, 統計番号622-687+xiページ。
- 12) 「キンジャサへの食料品の『河川輸送業者』に関するアンケート」1990年12月, 統計番号688-740+ixページ。

- 13) 「キンジャサへの食料品の『パルコリ』に関するアンケート」1990年12月，統計番号741-791+x ページ。
- 14) 「キンジャサにおける食料品の『卸売業者』に関するアンケート」1990年12月，統計番号792-849+x ページ。
- 15) 「キンジャサにおける食料品の『小売業者』に関するアンケート」1990年12月，統計番号850-913+x ページ。
- 16) 「バ・ザイール州におけるキャッサバ，トウモロコシ，落花生，米，インゲン，プランテン・バナナの生産（1988年10月～1989年9月）」1990年12月，統計番号914-978+viii ページ。
- 17) 「バ・ザイール州における伝統的農民の農産物（キャッサバ，トウモロコシ，落花生，米，インゲン，プランテン・バナナ）販売収入（1988年10月～1989年9月）」1990年12月，統計番号979-1054+xv ページ。
- 18) 「バ・ザイール州におけるキャッサバ，トウモロコシ，落花生，米，インゲン，プランテン・バナナの販売量（1988年10月～1989年9月）」1990年12月，統計番号1055-1102+x ページ。
- 19) 「バ・ザイール州における農民の販売・購入条件の諸側面（1988年10月～1989年9月）」1990年12月，統計番号1103-1180+xi ページ。

〔付記〕

筆者がトレンス教授らの報告書について知ったのは，1990年秋にベルギーを訪問した際，ベルギーのザイール研究者から紹介されたのが最初であった。その後，報告書の一部をコピーで持ち帰り，それを読んだの感想と質問とをトレンス教授に送ったところ，返信で公刊された報告書をすべて筆者宛に送って下さった。その後，1991年夏には東京で行われた国際農業経済学会出席のため来日の折に，アジア経済研究所で開催された研究会に出席され，貴重なスライドを交えた興味深い説明を拝聴することができた。筆者が報告書を整理・紹介することを快諾され，かつ我々の質問に熱心に答えて下さった教授のご厚意に心から感謝したい。